

(三) 支部組織の強化

支部組織の強化という積極的な姿勢は取れず、しかし少なくとも支部会の通知があつた場合に、本部からだれかを派遣して鯉洲学園並びに同窓会の近況報告、同窓会活動に対するお礼及び協力依頼、学生募集に対する協力依頼等をする事にしておりましたが、実績は十分でありませんでした。

なお、支部会は第十九回大会報告十回に対し、十七回と非常に盛んになりました。

二年一月 福岡県支部大会

二月 秋田県支部会 関 出席

四月 茨城県支部会 学園長、本部会員多数出席

六月 千葉県支部会 会長出席

六月 兵庫県支部会 坪野出席

七月 福井県支部会 西村出席

九月 岩手県支部会 砂田出席

十月 ばってん会(福岡県支部会)

十月 群馬県支部会 高橋出席

三年一月 不知火会(熊本県支部会)

四月 沖繩県支部会

六月 秋田県支部会

群馬県支部会 高橋出席

七月 兵庫県支部会

栃木県支部会 西村出席

岐阜県支部会 砂田出席

九月 岩手県支部会

また、学園長出張の際、支部に連絡して卒業生の集いをもつていた

いた。福岡県、愛媛県、秋田県、青森県、岐阜県等です。

(四) 学園に対する協力

同窓会報への学生募集記事掲載、支部会開催事の学生募集協力依頼や先生方の学生募集出張時の協力をしました。

(五) 家史の発行

二年十月一日付で八百冊を発行しました。会員には、一冊八千円(送料、消費税込み)で販売、六百二冊の申込みがあり、四百五冊分の入金があり発送しました。残りは贈呈分と子備にしたいと考えています。

(六) 分収林の管理

二年七月二十七日の三回卒業生有志の参加を呼掛け、下草刈りを実施しました。夫々八、八、六名の協力者がありました。また、三年八月二十五日九月二日間に延べ五十人の熟練技術者による徹底的な下草刈りを致しました。

なお、専門家によると除草剤による葛退治、一部に杉苗二百本の補植及び後三年(三回)の徹底的な下草刈りが必要であるとのことでした。

II 平成二、三年度決算報告

決算書は別表の通りですが、一般会計では、収入で会費の納入に対する会員のご協力が目立ちました。支出では名簿発行は次年度に送り券、人件費を節約し、返済金を頑張り(借金残四十万

協会、学園と共に英知を尽くして取組んで参ります。幸い私は学園に毎週二日通っておりますので、内外の情勢を熟知できます。理事長、学園長に進言して改革を推進して参ります。そのための委員会を設置いたします。

六、会報と名簿の発行

皆様に喜ばれる会報を定期的に発行しますとともに、名簿は消息不明者の追跡を行い正確を期して、二月末迄には発行いたします。

以上のような会務に努力いたします。社会的には立派な方々が会員に多いのに、私の様な未熟者が会長を勤めさせて頂きますことに恐れを感じています。皆様のご支援御協力なくしては何事もできません。何卒何卒よろしくお願ひ申し上げます。 合掌

推薦入学・優先入学の結果について

教務部長 安藤義道

一、学園の近況

十一月は農業祭のシーズンです。最近全国どこでも農業祭が華やかに行われますが、背景には安くて、新鮮で、安全な食への社会的関心があるように思われます。

学園でも十一月三、四日と学園祭を行い、中庭で豚汁を食べたり、グラタン下では農場や同窓生・学生父兄の皆様

から提供して頂いた農産物の展示即売を行いました。大変な盛況でした。とくに野菜は品不足で高いということから発売開始の一時間後にはなくなつてしまい、これを目当て訪れたお客様からは落胆の声さえ聞かれました。

このように、農産物への高級志向がとどまることをしらない一方で、かんじんな作り手が減少の一途をたどるといのが現代日本の現実です。とうとう平成二年度は新規学卒就農者も二十四人を割りました。しかし、学園生にはこうした社会の動きに感嘆されることなく農業自営を選ぶ学生諸君も沢山います。今年六月の調査では自営希望が本料、専攻科で十七名、総数百十一名中一ありました。また、自営者の中には普及員資格をとった人も何人かあります。

二、推薦入学者・優先入学者決定

この会報には毎回学生募集の協力をお願いしてまいりましたが、学生が多い学園には活気があります。逆に、学生の少ない学園には活気がありません。現在、学生は本料、普及専攻科合せて二百六十名です。本来なら定員が本料三百六十名、普及専攻科が四十名ですから合せて四百名が在学のはずです。から、実質百名の定員割れにあります。幸い若い学生諸君ですから、二百六十名でも活気がありますが、何とかこれ以上の学生を確保したいというのが私たち教職員、同の願いです。そのひとつの手段に取り入れたのが

平成2・3年度の事業報告および会計

鯉淵学園同窓会会長
渡辺正信 ㊟

以上の通り平成2・3年度事業報告および会計決算報告書を提出いたします。
平成3年11月2日

砂本武
田宮内
義好十
雄美郎
㊟㊟㊟

鯉淵学園同窓会監事

決算報告書は正確適正であることを認めます。
平成3年11月3日

2) 収支明細表

項目	科目	金額(円)	摘要
収入	繰越金	510,567	
	分収林補助金	115,836	高萩営林署
	補填金	315,849	一般会計
	合計	942,252	
支出	育林事業	942,252	下刈他
	合計	942,252	
収支差額		0	

4. 終身会費会計

1) 財産目録

項目	金額(円)	摘要
純財産	4,242,500	預金

2) 収支明細表

項目	科目	金額(円)	摘要
収入	会費	4,788,500	182名
支出	一般会計	546,000	2・3年度分182名分
収支差額		4,242,500	

2. 基本金会計

1) 財産目録

項目	科目	金額(円)	摘要
資産の部	預金	5,425,576	
	貸付金	400,000	
	合計	5,825,576	
負債の部		0	
純財産		5,825,576	

2) 収支明細表

収入の部

科目	金額(円)	摘要
入会金	1,200,000	2・3年度入学生160名
返済金	750,000	一般会計より
合計	1,950,000	

支出の部

科目	金額(円)	摘要
預金	1,950,000	
合計	1,950,000	
収支差額	0	

3. 特別会計 (40周年)

1) 財産目録 純財産 0

**改良普及員に11名が
内定している
普及専攻科生**

農業はいま、国際化と構造変革の時代をむかえ、その担い手とリーダーの要請が強く求められています。そうした社会の要請にこたえるものとして、普及専攻科が昭和六十一年に創設され、この三月には六回生を社会に送り出します。次表に示される如く改良普及員資格試験合格者は八割以上となり、本年度は十一名が北海道や茨城県

- ⑥ 現住地の市町村または農業共同組合長などにより、家庭の事情や本人の将来の希望などを含めて推薦を得たものはその推薦書
- ⑦ 選考料 二五、〇〇〇円(現金または為替にして送金のこと)
- ⑧ 願書受付期間
平成三年十一月二十一日(木)より平成四年二月二十日(木)(当日の消印のあるものは有効)までの期間。
- 4 選考・発表
願書の受付締切後、書類について選考し、結果を二月二十八日(金)に発表する。
- 5 入学手続
合格通知を受けたものは、十日以内に所定の手続を完了すること。
- 6 入学式
平成四年四月十日(金)

改良普及資格試験合格者数

年度	専攻科数	資格試験合格者数	合格率(%)
昭和61年	25名	22名	88.0%
62年	16	14	87.5
63年	15	12	80.0
平成元年	33	30	90.9
2年	33	28	82.3
3年	36	32	88.8



など数県に採用が内定しています。また関東農政局に平成二年に峯岸孝司君が、三年に稲村道明君、四年は島田喜昭君(内定)が就職しています。実践力の旺盛な鯉淵学園出身者に大きな期待が寄せられています。先輩諸兄姉に劣らぬ活躍をしてくれましょう。なお、本科生の半数が普及専攻科を希望していますが、専攻試験で三割ぐらいが落され、入学できないため、下級生の刺激となり勉学意欲を高めています。

III 平成四、五年度事業計画

(一) 会報の発行

第四十八号(五十一号)を三年十二月、四年六月に発行する。

(二) 会員の名簿発行

前年度のいきさつによる名簿発行を四年二月に発行する。

(三) 支部組織の強化

各支部支持に支部会の開催頻度の少ない県に支部会開催を要請し、支部会には事務局員、常任委員のみならず教職員への派遣も考慮し、支部組織の強化を促す。

(四) 学園への協力

これまでの同窓会会報への学生募集依頼記事掲載、支部会等への学生募集依頼の外、学園五十周年記念事業への協賛をもって協力していく。

(五) 分収林の管理

米春に葛の除草剤による駆除、杉苗二百本の補植、年一回の下草刈りを実施する。

(六) 学園創立五十周年記念事業

鯉淵学園は次の事業を決定しているが、その内容については未検討である。

- (1) 鯉淵学園五十年史の編纂
 - (2) 鯉淵学園運営寄金の創設
 - (3) 記念行事
- 同窓会としては、事務局提出の五十周年記念事業検討小委員会の答申を了承し、これを基に農民教育協会

並びに鯉淵学園と取り上げる事業及びその分担協力分野を協議し、互いの事業の進め方を決定することになる。同窓会側の審議決定は、常任委員会に一任する。

五十周年記念事業検討小委員会答申内容(九月十七日)

(一) 五十周年記念事業への取り組みについて

- (1) 鯉淵学園の五十周年記念事業への取り組みについては態度不明であるが、本会として鯉淵学園に対し、五十周年記念事業実施計画を決め、できるだけ早く事業に着手するよう、本会の計画を提示して要請すべきである。
- (2) 事業の実施に当たっては、鯉淵学園が主催し本会がこれに協賛する形が望ましい。
- (3) 事業(鯉淵学園運営寄金の創設)の達成のためには、協賛を得られる趣意の提示、とりわけ安心して後輩を送り込める新しい時代にマッチした学園教育の実現が必要であろう。そのためには学識経験者、実績のある農業者、本会代表、学園代表者で構成する「鯉淵学園教育検討委員会」を設置し、「二十一世紀を指した農業教育計画案を作成していたたくとも、方途の一つとして鯉淵学園に要請すべきである。

(二) 記念事業として取り上げる内容

(1) 鯉淵学園五十周年史の編纂への協力

- ① 二十年史後を中心に編纂する。
- ② 卒業生の活動状況も内容に盛り込む。

③ 同窓会の歩みも加える。等を要請していく。

(2) 鯉淵学園寄金の創設

- ① 農民教育協会、鯉淵学園の財政基盤を確立するための基金創設に付き農民教育協会並びに鯉淵学園より、趣意書「鯉淵学園教育の将来計画」をもって協力要請があることを前提にして、本会の事業として取上げる。
- ② 本会として運営基金を会員から募る。募金額は一口五万円とし、計画通り(本会に要請された募金目標額)の募金額の達成を目指す。
- ③ 基金の使途に対する本会の要望

イ、学生募集重視学園PR、勧誘旅費の使方をする。

ロ、教授スタッフ充実費に当てる。

ハ、基金に余裕があるとき、本会員保養施設、東京オフィス契約、学園の文化施設整備等についての使途も考える。

(3) 卒業生全国ネットワークの整備と学園教育、本会活動の活性化

- ① 人材バンクとしての講師リストの作成(学園並びに各地講演会講師)
- ② 実習生等を受入れて戴ける卒業生農家リストの作成(学園生学外実習並びに海外研修生の受入れ、自営者間の労働力交換)
- ③ 消え行く農業技術の伝承(羊毛紡ぎ、綿の紡ぎ、鞍の作り方等の実演)
- ④ 海外研修記念ツアの実施(海外在住者の訪問)

IV 平成四・五年度予算

予算は別表の通りです。

収入は、名簿発行関係を除き今大会年度比二十五%増、内会費収入二十二%増で、皆様の協力に大きく期待しております。

支出は、通信費に七十五万円の名簿送料が含まれており、人件費は前年度予算並み大きくしましたが事務局長にもっと時間の割ける別の人(茨城県職OB)を予定しており、分収林管理費は少なく心許無いのですが会費収入で応援して戴きたく、その他名簿発行費を除けば前年度決算額相当になっています。収入増額約一、四〇〇万円と大変な金額になりましたが、これがパブルに

新潟県支部同窓会

佐渡で開く

関 正治(四期)

平成三年十一月九、十日、佐渡の両津市「花月ホテル」において、第六回支部総会が開かれ、本部から私が派遣され参加した。

「誰がくるだろうか」、「あの人はどうしているだろうか」など考えながら新潟駅前バス停に立っていると、四十三期の宇野朋さんが、また、船待ちをする新潟港では、七期の寺尾、八期の涌井氏と会い、手短かに近況交換をしながら、参加する同窓生を待つ。二期北條、三期大柿、五期黒石(西條)、二期高橋、十三期田辺、十四期西潟、渡辺、三十三期重野、二十五期佐藤の諸氏の顔が混雑する人並の中にちらつく。「やあ、やあ」、「お変わりないですか」、この一言で「以心伝心」、もう仲間である。

向い風のせいか波が高く船ゆれがひどく、乗船して間もなく横になる者、デッキに出る者。両津港では、迎えるの車に乗り、一路「花月ホテル」へ。やがて、予定された二十八名(総員一七八名)が集合。十八時三十分、重野氏の司会で開会。黒石支部長より「今後一層親睦を深め、同窓生の団結を深めつつ、学園発展への協力体制を強めたい」旨の挨拶。私からは「大会議案書」、



「寮史」、「学生便覧」、「学園の寮生活を楽しむ」、「卒業生就職状況」、「ポスター」、「募集要覧」、「鯉淵学園の将来を考える」など持参資料を配布回覧し、同窓会大会の決議事項、学園の現状と新しい動き、支部に対する要望(学生募集・会費納入)などを述べ、若干の意見交換をした。卒業生の関心は、学園の将来についての問題であった。それは、「優秀な学生の募集」進学校へのチャレンジ、学生の質の向上、「情報処理・バイオテクなど導入強化」、「教授陣容の強化(公募)」、「資金集めの工夫」など

に要約される。卒業生のみなが学園の将来を心配していることがひしひしと感ぜられた。

新役員には、支部長黒石勇蔵(五期)、副支部長田辺扶裕子(十三期)と幹事十五名(各地区三名)が選出され、三年後、「上越地区」で総会開催を決議した。

続いて酒宴に入り、大地氏(九期)の歓迎のあいさつ、寮歌斉唱、北條氏の乾杯、そして、深夜までなごやかな交流が行われ、大柿氏の万才で閉会となり、一夜を共にした。

出席者は、前出を除き、十期志田、十九期山本・阿部、二十五期服部、二十六期佐藤、二十九期佐藤・坪野、三十期佐藤、三十四期板垣・高野・甲斐・川本、三十五期野崎・土屋、三十六期川原、四十四期本間の諸氏である。

「寮史」完成しました

ずい分永らくお待たせしましたが、ようやく鯉淵学園学生寮史として印刷が完了しました。学園四十周年記念事業として取り組んだことでしたので、五年ほど刊行が遅延してしまいましたことをお詫びいたします。

刊行になりました寮史は、B5版・七一〇ページの上製本となりました。(写真参照)。

- (1) 写真クラブピア 二六六ページ
 - (2) 本文・通史 五七〇ページ
- (各年度の事実年表と付属資料)

- (3) 回顧録 五〇ページ
(四十期までの二六名が寄稿)
- (4) 参考資料

- ① 学生寮配置図
- ② 自治について(鞍田先生)
- ③ 自治会等の会則の変遷
- ④ 愛唱歌集
- (5) 編集後記

この会報を通じて予約注文をとりましたところ六百名余の方から希望がありましたので、余分を見込んで八百部を印刷し、十月二十五日に完成しました。送金のありました皆さんにはすでに発送いたしました。今もって連日のように注文送金が相次いでありますので、残部は百冊以下となります。予約いただいた方で未送金の方は、一月三十一までに送金ください。今回のお知らせで三回目の催促となりますので、送金いただけなかった方は希望がなかったものとして新たな希望者に販売したいと思います。ご了承下さい。新たにご希望の方も、早めに注文ください。頒価は八、〇〇〇円(送料込み)です。場合によっては不足することも考えられます。ご注文数がとくに多い場合には、三百冊をメドに増刷も考えますが、しばらくお待ちいただくこととなりますし、単価も割高になるかと思えます。

なお、すでにお届けしたものの中に乱丁がありましたら、送料着払いでご返送下さい。お取り替えします。